

2026年6月24日

JFEスチール株式会社

第23期
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

計算書類

貸借対照表	P1
損益計算書	P2
株主資本等変動計算書	P3
個別注記表	P4 ~P16

(表紙を除き全16ページ)

【 貸 借 対 照 表 】

(2 0 2 6 年 3 月 3 1 日 現在)

JFEスチール株式会社
(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	10,910	買掛金	210,078
売掛金	275,858	短期借入金	618,571
契約資産	760	リース債務	13
商品及び製品	342,561	未払金	71,679
仕掛品	5,843	未払費用	115,118
原材料及び貯蔵品	429,931	未払法人税等	823
前渡金	42,902	前受金	546
前払費用	1,767	預り金	130,885
その他	64,833	前受収益	2,725
貸倒引当金	△ 1	その他	20,229
流動資産合計	1,175,367	流動負債合計	1,170,672
固定資産		固定負債	
有形固定資産		関係会社長期借入金	1,284,609
建物	125,475	リース債務	23
構築物	98,206	退職給付引当金	59,951
機械及び装置	662,162	取締役・執行役員株式給付引当金	511
船舶	5	特別修繕引当金	6,883
車両運搬具	1,552	債務保証損失引当金	1,053
工具、器具及び備品	8,003	P C B 処理引当金	2,964
土地	331,024	資産除去債務	1,759
リース資産	33	その他	76,817
建設仮勘定	150,491	固定負債合計	1,434,573
有形固定資産合計	1,376,955	負債合計	2,605,246
無形固定資産		(純資産の部)	
特許権	97	株主資本	
借地権	89	資本金	239,644
商標権	122	資本剰余金	
ソフトウェア	114,200	資本準備金	390,021
その他	7,593	その他資本剰余金	3,781
無形固定資産合計	122,104	資本剰余金合計	393,802
投資その他の資産		利益剰余金	
投資有価証券	71,033	その他利益剰余金	
関係会社株式	628,177	固定資産圧縮積立金	3,472
関係会社出資金	51,004	特定災害防止準備金	105
長期貸付金	3	繰越利益剰余金	237,911
関係会社長期貸付金	18,274	利益剰余金合計	241,488
繰延税金資産	42,780	株主資本合計	874,936
その他	26,764	評価・換算差額等	
貸倒引当金	△ 12,202	その他有価証券評価差額金	18,636
投資その他の資産合計	825,836	繰延ヘッジ損益	1,443
固定資産合計	2,324,895	評価・換算差額等合計	20,080
		純資産合計	895,016
資産合計	3,500,263	負債純資産合計	3,500,263

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

【 損 益 計 算 書 】

(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

JFEスチール株式会社
(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		2,319,162
売上原価		2,232,810
売上総利益		86,352
販売費及び一般管理費		142,923
営業損失(△)		△ 56,571
営業外収益		
受取利息及び配当金	50,548	
その他	20,308	70,856
営業外費用		
支払利息	18,996	
その他	30,765	49,761
経常損失(△)		△ 35,476
特別損失		
京浜土地活用整備推進費	12,176	
減損損失	6,242	
GX設備建設関連撤去費用	4,705	23,124
税引前当期純損失(△)		△ 58,600
法人税、住民税及び事業税	△ 24,111	
法人税等調整額	△ 3,953	△ 28,064
当期純損失(△)		△ 30,536

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

【株主資本等変動計算書】

(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

JFEスチール株式会社
(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	
					固定資産圧縮積立金	特定災害防止準備金
当期首残高	239,644	390,021	3,781	393,802	3,472	105
当期変動額						
固定資産圧縮積立金の積立	—	—	—	—	0	—
特定災害防止準備金の取崩	—	—	—	—	—	△0
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—
当期純損失(△)	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	—	—	0	△0
当期末残高	239,644	390,021	3,781	393,802	3,472	105

	株主資本			評価・換算差額等			純資産 合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・換 算差額等 合計	
	その他 利益剰余金	利益 剰余金 合計					
	繰越利益 剰余金						
当期首残高	282,348	285,926	919,373	12,808	69	12,878	932,252
当期変動額							
固定資産圧縮積立金の積立	△0	—	—	—	—	—	—
特別災害防止準備金の取崩	0	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	△ 13,901	△ 13,901	△ 13,901	—	—	—	△ 13,901
当期純損失(△)	△ 30,536	△ 30,536	△ 30,536	—	—	—	△ 30,536
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	—	—	—	5,827	1,374	7,201	7,201
当期変動額合計	△ 44,437	△ 44,437	△ 44,437	5,827	1,374	7,201	△ 37,235
当期末残高	237,911	241,488	874,936	18,636	1,443	20,080	895,016

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

【 個 別 注 記 表 】

重要な会計方針

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 関係会社株式・出資金

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

① 市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

② 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法によっております。

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（５年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（リース契約に残価保証の取決めがある場合は、当該残価保証額）とする定額法によっております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(3) 取締役・執行役員株式給付引当金

取締役・執行役員株式給付引当金は、役員株式給付規程に基づき、業務執行取締役および執行役員（所得税法上の国内非居住者を除く。）に割り当てられたポイントに応じた給付見込み額を計上しております。

(4) 特別修繕引当金

熱風炉の改修に要する費用に備えるため、改修費用見積額を計上しております。

(5) 債務保証損失引当金

債務保証等に係る損失に備え、被保証先の財政状況等に基づいて、損失負担見込額を計上しております。

(6) PCB 処理引当金

「ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により処理することが義務付けられているPCB廃棄物の処理に係る費用の支出に備えるため、その処理費用見積額を計上しております。

6 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）第3項に記載されている項目を除き、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への財やサービスの移転との交換により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する

ステップ5：履行義務を充足した時に（または充足するにつれて）収益を認識する

鉄鋼製品等の販売については、主として製品を出荷した時点で、顧客に製品の所有に伴う重大なリスクおよび経済価値が移転し、支払を受ける権利が確定するため、その時点で収益を認識してお

ります。取引の対価は、履行義務を充足してから主として1年以内に受領しており、重大な金融要素は含んでおりません。

7 ヘッジ会計の方法

(1)ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約等について振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

(2)ヘッジ手段とヘッジ対象

為替予約…外貨建取引および予定取引

商品先渡・先物…原材料

商品スワップ…燃料

(3)ヘッジ方針

当社における社内管理規程に基づき、為替変動リスクおよび商品価格変動リスクをヘッジしております。これらすべてのデリバティブ取引は、実需に基づくものに限定しており、投機を目的に単独で利用することはありません。

8 グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従っております。

会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

1 棚卸資産の評価

棚卸資産は、取得原価で測定しておりますが、事業年度末における正味実現可能価額が取得原価より下落している場合には、当該正味実現可能価額で測定し、取得原価との差額を原則として売上原価に認識しております。また、営業循環過程から外れて滞留する棚卸資産については、将来の需要や市場動向を反映して正味実現可能価額等を算定しております。市場環境が予測より悪化して正味実現可能価額が著しく下落した場合には、損失が発生する可能性があります。

なお、当事業年度にて計上した棚卸資産の金額は、貸借対照表に記載のとおりであります。

2 有形固定資産および無形固定資産の減損

当社は、有形固定資産および無形固定資産のうち事業年度末現在で減損している可能性を示す兆候がある資産または資産グループについて、当該資産または資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を計上しております。減損損失の認識および測定にあたり、将来のキャッシュ・フロー、割引率等について仮定を設定しております。これらの仮定については、経営者の最善の見積りと判断により決定しておりますが、将来の不確実な経済条件の変動等の結果によって影響を受ける可能性があり、見直しが必要となった場合、計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

なお、当事業年度にて計上した有形固定資産および無形固定資産の金額は、貸借対照表に記載のとおりであります。

3 繰延税金資産の回収可能性

繰延税金資産は、将来の事業計画に基づいて課税所得の発生時期および金額を見積り、回収可能性があると判断した将来減算一時差異等について計上しております。このような見積りは、経営者による最善の見積りにより行っておりますが、将来の不確実な経済条件の変動等の結果によって実際の結果と異なる可能性があります。

なお、当事業年度にて計上した繰延税金資産の金額は、注記「税効果会計関係」に記載のとおりであります。

4 引当金および資産除去債務の会計処理と評価

引当金および資産除去債務は、将来において見込まれる費用または損失の事業年度末日における最善の見積りに基づいて測定しております。将来において見込まれる費用または損失の金額は、将来の起こりうる結果を総合的に勘案して算定しております。これら引当金の測定において使用される仮定は、将来の不確実な経済条件の変動等の結果によって影響を受ける可能性があり、将来にわたり、引当金の測定額に重要な修正を生じさせるリスクを有しております。なお、退職給付引当金については、「5. 退職給付引当金の会計処理と評価」に記載しております。

当事業年度にて計上した引当金および資産除去債務の金額は、貸借対照表に記載のとおりであります。

5 退職給付引当金の会計処理と評価

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付債務は、数理計算上の仮定に基づいて算定しており、数理計算上の仮定には、割引率、退職率、死亡率、昇給率等を見積りが含まれております。これらの仮定は、金利変動の市場動向等、入手可能なあらゆる情報を総合的に判断して決定しております。これら数理計算上の仮定は将来の不確実な経済環境あるいは社会情勢の変動等によって影響を受ける可能性があり、将来にわたり、退職給付債務の測定額に重要な修正を生じさせるリスクを有しております。

なお、当事業年度にて計上した退職給付引当金の金額は、貸借対照表に記載のとおりであります。

6 市場価格のない株式等の評価

市場価格のない株式等については、発行会社の財政状態の悪化等により実質価値が著しく低下した場合、回復可能性があると思われる場合を除き、相当の減額を行い、評価差額を当事業年度の損失として処理しております。将来の市況悪化や投資先の業績不振等の変化があった場合には、翌事業年度以降の評価額に影響を与える可能性があります。

なお、当事業年度にて計上した市場価格のない株式等の金額は、注記「金融商品関係」に記載のとおりであります。

7 偶発事象

偶発事象は、事業年度末日における全ての利用可能な証拠を勘案し、その発生可能性および金額的影響を考慮した上で、将来の事業に重要な影響を及ぼしうる項目を考慮しております。

保証債務等については、注記「貸借対照表関係」に記載のとおりであります。

貸借対照表関係

1 有形固定資産の減価償却累計額

	金額
減価償却累計額	5,543,949百万円

2 関係会社に対する資産および負債(区分掲記したものを除く)

	金額
短期金銭債権	54,182百万円
長期金銭債権	50
短期金銭債務	766,369
長期金銭債務	293

3 保証債務等

下記会社の金融機関借入金等について保証を行っております。

	金額
PT. J F E スチール・ガルバナイジング・インドネシア	22,325百万円
ニューコア・J F E スチール・メキシコ・S. DE R. L. DE C. V.	12,931
J F E スチール・オーストラリア・リソーシズ・プロプライタリー・リミテッド	6,931
フィリピン・シンター・コーポレーション	4,620
アルガービア・パイプ・カンパニー	2,953
その他	6,664
計	56,426

4 固定資産の圧縮記帳額

有形固定資産について、取得価額から控除した国庫補助金等による圧縮記帳額は1,169百万円です。

損益計算書関係

関係会社との取引額

	金額
関係会社への売上高	211,583百万円
関係会社からの仕入高	612,063
関係会社との営業取引以外の取引高	182,192

株主資本等変動計算書関係

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	期首株式数（千株）	増加株式数（千株）	減少株式数（千株）	期末株式数（千株）
普通株式	539,170	—	—	539,170

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2026年2月24日 取締役会	普通株式	13,901	25.78	2025年12月31日	2026年3月10日

- (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

税効果会計関係

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	金額
繰延税金資産	
減損損失	49,173百万円
関係会社株式評価損	19,095
退職給付引当金	18,814
税務上の繰越欠損金	18,389
退職給付信託	9,699
その他	43,580
繰延税金資産小計	158,751
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△17,337
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△85,504
評価性引当額小計	△102,842
繰延税金資産合計	55,908
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△8,961
固定資産圧縮積立金	△1,588
その他	△2,577
繰延税金負債合計	△13,127
繰延税金資産(負債)の純額	42,780

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.0%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	△0.7%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	22.7%
評価性引当額の増減	△6.0%
その他	1.9%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.9%

金融商品関係

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金調達については、主として当社の完全親会社であるJFEホールディングス㈱から実施しております。JFEホールディングス㈱は、資金の安定性とコストを勘案しながら、銀行借入やコマーシャル・ペーパーおよび社債の発行等を中心に必要な資金を調達しております。一時的に余剰資金が生じた場合は、短期的な運用等に限定しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、当社は取引先の財務状況を定期的に把握する等の管理を行っております。また、一部の債権は期日前に売却しております。

営業債務である買掛金は、概ね1年以内の支払期日のものであります。

外貨建て営業債権、営業債務は為替の変動リスクに晒されております。外貨建て取引による外貨の受け取り（製品輸出等）と外貨の支払い（原材料輸入等）で相殺されない部分については、為替予約等を利用したヘッジ取引を適宜実施しております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されております。また、外貨建ての有価証券については、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価を把握しております。

借入金は、流動性リスクを考慮し、返済期日を集中させないように管理しております。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。

当社の利用するデリバティブ取引は、将来の為替等の市場価格変動のリスクを有しておりますが、輸出入取引等の実需に伴う取引に対応させてデリバティブ取引を行っていることから、これらのリスクは機会利益の逸失の範囲内に限定されております。当社は、デリバティブ取引の取引先を、信用力の高い金融機関等に限定していることから、取引相手先の倒産等により契約不履行に陥る信用リスクはほとんどないものと判断しております。また、当社はデリバティブ取引に係る社内規程を定め、これに基づき取引を実施しております。取引の実行にあたっては、CEOの決定した上記方針に則り、担当執行役員の決裁により取引を実行しております。取引残高や時価、評価損益については、取締役会またはCEOに定期的に報告することとしております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格のない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等については、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	10,910	10,910	—
(2) 売掛金	275,858	275,858	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	26,400	26,400	—
(4) 関係会社株式			
子会社株式	1,470	41,382	39,912
関連会社株式	9,870	52,443	42,573
資産計	324,510	406,995	82,485
(1) 買掛金	210,078	210,078	—
(2) 短期借入金	618,571	618,571	—
(3) 関係会社長期借入金	1,284,609	1,256,392	△28,217
負債計	2,113,260	2,085,043	△28,217
デリバティブ取引（*1）			
ヘッジ会計が適用されているもの	2,589	2,589	—
デリバティブ取引計	2,589	2,589	—

（*1）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目は、（ ）で示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

（1）現金及び預金、並びに（2）売掛金

概ね短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）投資有価証券、並びに（4）関係会社株式

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。

負 債

（1）買掛金、並びに（2）短期借入金

概ね短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 関係会社長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているもの

原則的処理によるものの時価は、契約を締結している取引先金融機関等から提示された価格によっております。

(注2) 市場価格のない株式等の貸借対照表計上額（百万円）

区分	金額
非上場株式	44,628
出資証券	4

これらについては、「資産(3) 其他有価証券」には含めておりません。

区分	金額
子会社株式	404,016
関連会社株式	212,820

これらについては、「資産(4) 子会社株式」または「資産(4) 関連会社株式」には含めておりません。

1 株当たり情報

1 株当たり純資産額	1,659円99銭
1 株当たり当期純損失(△)	△56円64銭

- (注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2 1 株当たり純資産額および 1 株当たり当期純損失(△)の算定上の基礎は以下のとおりであります。

(1) 1 株当たり純資産額

純資産の部の合計額(百万円)	895,016
純資産の合計額から控除する金額(百万円)	—
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	895,016
1 株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	539,170

(2) 1 株当たり当期純損失(△)

当期純損失(△)(百万円)	△30,536
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—
普通株式に係る当期純損失(△)(百万円)	△30,536
普通株式の期中平均株式数(千株)	539,170

重要な後発事象

該当事項はありません。

(追加情報)

当社および当社の完全親会社である J F E ホールディングス(株)は、2025年11月25日、2025年12月3日開催のそれぞれの取締役会において、J S W スチール・リミテッド(以下、J S W 社)傘下のブーシャ
ン・パワー・アンド・スチール・リミテッド(以下、B P S L 社)に出資し、J S W 社と合併事業を実施することを決議しております。上記の決議に基づく出資は、J S W ・カリंगा・スチール・リミテッ
ド※を通じて2回のトランシェに分割して実施する予定であります。

B P S L 社は、インド東部地域に鉄鉱石鉱山および一貫製鉄所を保有し、主に薄板・棒鋼・線材を製造しており、インド東部および北部を中心に幅広い販売網を有する、コスト競争力の高い鉄鋼会社であります。また、同社の一貫製鉄所は2030年を目標に粗鋼生産を1,000万トン規模に拡張する計画があり、さらに将来的には1,500万トン規模まで拡張し、インド最大級の一貫製鉄所へと発展するポテンシャルを有しております。

なお、合併事業化は2026年3月30日に完了し、J S W J F E ・スチール・リミテッド(以下、J J S L 社)が設立されております。J J S L 社を J F E スチール(株)の東西製鉄所に次ぐ第3の一貫製鉄所と位置付け、海外事業収益をさらに拡大してまいります。

< B P S L 社の概要 >

所在地：インド オディシャ州 サンバルプル市

粗鋼生産能力：450万トン

製造品種：熱延鋼板、冷延鋼板、棒鋼、線材、鋼管

売上高：2024年度 2,144億ルピー(約3,600億円)

< 合併事業の概要 >

当社出資額：1,575億ルピー(約2,700億円)

出資構成：J F E スチール(株)50%、J S W 社50%

< 株式取得のスケジュール >

第1 トランシェ：25%出資、出資額787.5億ルピー(約1,350億円) 2026年3月完了

第2 トランシェ：25%出資、出資額787.5億ルピー(約1,350億円) 2026年6月頃予定

※ J S W ・カリंगा・スチール・リミテッドは、2026年4月17日に J S W J F E ・カリंगा・スチール・リミテッドへ商号変更しております。